

2022年7月31日

立教大学国際学術研究交流制度  
2022年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	観光学部・教授
	氏名	韓 志昊
受入学部・研究科・研究所		観光学部
招へい 研究員	所属・職	Associate Dean and Professor University of Houston 所属機関所在国：米国
	氏名	Ki-joon Back
招へい期間		2022年6月15日～2022年6月30日（16日間）
研究経費		593,090円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

\*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2022年6月15日(水)	来日
2022年6月17日(金) 1限(対面)	Current Trends in Tourism 1 講義（聴講も含め10名参加）
2022年6月20日(月) 1限(対面)	※公開講義 Guest Lecture: Luxury Tourism & ESG 観光学部授業 Introduction to Tourism 1 にて 新座キャンパス N852（35名参加）
2限～4限	韓ゼミ生 Field Study 指導 日本橋エリア（6名参加）
2022年6月23日(木) 12:30～13:10(対面)	※アカデミック・アドバイザー講演会：Transforming Tourism 新座キャンパス N121（245名参加）
2022年6月24日(金) 1限(対面)	Current Trends in Tourism 1 講義（聴講も含め11名参加）
2022年6月27日(月) 2限～4限	韓ゼミ生 Field Study 指導 銀座エリア（6名参加）
2022年6月30日(木)	帰国

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

観光学部の講義科目 Introduction to Tourism 1 にて、受講生 35 名を対象に、Luxury Tourism & ESG について、ゲストレクチャーをしていただいた。英語による科目であるため、留学を希望している学生が多く、University of Houston の紹介もあり、学部間留学や短期 Field Study への参加意欲に繋がることを期待する。

学部プログラムであるアカデミック・アドバイザー企画講演会では、「Transforming Tourism」という主題で、新座キャンパス N121 にてお話をしていただいた。1 年生を中心に教職員も含め 245 名が参加した。2020 年 8 月に United Nations が発表した「Policy Brief: COVID-19 and Transforming Tourism」について、Back 先生が UN Chronicle に寄稿された Commentary 記事の内容を中心に、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大がもたらしている観光への影響と今後の展望について講義をしていただいた。

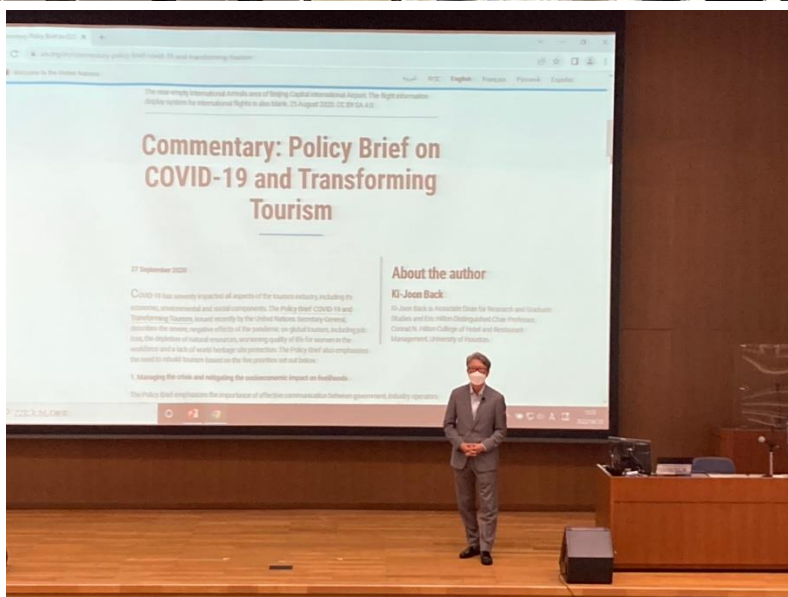
6 月 20 日と 27 日は、韓ゼミ生（4 名）の東京探検 Field Study に参加してもらい、学生たちが外国人観光客に東京の主要名所を案内する企画を体験することができた。Back 先生を案内し、事前準備や当日の進行、メンバー間のコミュニケーションと協力の重要性を経験する良い機会になった。また、新型コロナウイルス発生後の東京の様子を視察することができて、Back 先生と米国の状況との違いについても意見交換をすることができた。

観光学部の英語による講義の中に協定校の先生 3 名に 3 つの講義（オンライン開講）を担当していただいている。その中に「Current Trends in Tourism 1」を Back 先生が春学期に担当されていて、来学中の 2 回の授業は対面で行うことができた。さらに、講演会やゲストレクチャーに参加した学生数名が授業にも参加して積極的に質問をするなど、とても有意義な教育活動ができた。

2019 年に協定締結以来、新型コロナウイルス感染症のため留学予定だった学生が渡航できずに諦めざるをえなかったが、Conrad N. Hilton College of Global Hospitality Leadership の国際交流担当の副学部長である Back 先生の来学が実現でき、立教大学と観光学部の学習環境や教育についてより理解を深めていただけたので、今後の交流がさらに発展することを期待できることが大きな成果である。

学術研究については、東京の現状を視察することができたので、今後の共同研究の内容について詳しく相談をし、競争的資金の申請を進めている。

6月23日アカデミック・アドバイザー講演会



6月17日 Current Trends in Tourism 1 講義



6月24日 Current Trends in Tourism 1 講義



6月20日 Introduction to Tourism 1 講義

